

左の記事を読んで下の問いに答えましょう。

1 空欄ABに語句を入れましょう。

A

B

2 傍線部①エルサレムは3つの宗教の聖地です。その3つの宗教を書きましよう。

教	教	教
---	---	---

3 傍線部②「三枚舌外交」について、英国は第一次大戦中、英国と協力すればパレスチナ地域の領地を認めるという約束をしました。しかし、同じパレスチナ地域について3つの矛盾する約束をしていました。誰に、どんな約束をしましたか。本文から読み取って3つ書きましよう。

複雑化の根底に英の「三枚舌外交」

パレスチナ問題の背景には2千年を超えるユダヤ人の苦難がある。国が滅ぼされ、土地を追われ、民族離散の悲劇に見舞われ、近代にユダヤ人国家を目指す

運動」が欧州から広がり、1948年、ユダヤ人は中東パレスチナにイスラエルをつくった。

ヘブライ人（後のユダヤ人）の王国ができ、紀元前6世紀、王国は新バビロニアに滅ぼされ、住民は一時とらわれの身に。古代ローマは2世紀前半にユダヤ人を聖地エルサレムから追放し、世界各地に散らばった。ディアスポラ（離散）と呼ばれる。

欧州のユダヤ人はキリスト教社会で差別に直面。19世紀のロシアでの迫害もあり、ユダヤ国家樹立を目指す

第1次大戦（1914～18年）下の15年、英国はパレスチナを支配する敵国オスマン帝国攻略のため、そこに住むアラブ人に戦後の国家独立を約束し協力を取りつけた。一方で16年、フランス、ロシアと同帝国領土の分割に合意。17年にはユダヤ人の支援を狙い、パレスチナでのユダヤ人郷土建設を「バルフォア宣言」で約束した。

こうした英国の「三枚舌外交」が現在のパレスチナ問題

の遠因とされる。第1次大戦後、パレスチナは英国の委任統治領となり、ユダヤ人の移住が進んでいった。

第2次大戦後にはナチス・ドイツの（ユダヤ人大量虐殺）の実態が明らかになった。欧米はユダヤ人支持に傾き、国連は47年、パレスチナをユダヤとアラブの2国家に分ける分割決議を採択。48年5月、イスラエルが独立した。

安住の地を求めるユダヤ、土地を失ったパレスチナ双方の争いは「世界史上、最大の難問」との見方がある。

（共同）

NIEワークシートのこたえ（2023年11月8日公開）

◆ワークシート「パレスチナ問題の根底に英三枚舌外交(社会SDGs16)」

2023.11.4付 朝刊 4面特集 解答

- 1 A シオニズム B ホロコースト
- 2 ユダヤ教 キリスト教 イスラム教 (順不同)
- 3 アラブ人に戦後の国家独立を約束した
フランス、ロシアと領土の分割に合意した
ユダヤ人に郷土建設を「バルフォア宣言」で約束した
(同意可 順不同)